

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1410号 令和6年6月15日号

埼玉県クルド人問題の核心は何か……………本紙編集部…………	1
異常気象が米作りに及ぼす深刻な問題……………	2
北朝鮮が抱える時限爆弾……………	2
読者投稿 能登半島地震 現地の声〈第3回〉……………	3
インドの将来は明るいのか……………	5
中国製合成麻薬フェンタニルが荒れ狂ってきた……………	6

本社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com

賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)

ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社

編集長/谷田 透

埼玉県クルド人問題の核心は何か

本紙編集部

埼玉県川口市などを中心に、クルド人の自称難民たちがコミュニティを拡大している問題と、クルド人の中で貧富の格差などの拡大によって差別と対立が激しくなっている問題は、いまや日本中を恐怖に陥れている。

ここで、移民に対する賛否や入管法の是非を論じる前に、この問題の核心は何かを知っておく必要があると思う、現在判っている範囲内でお知らせしておく。

彼らの多くは、トルコ国籍のクルド人である。トルコ南東部の貧しい農村出身者が多いそうだが、現地ではほとんどは小学校までしか行かないので、読み書きの出来る人の方が少ないと言われている地域だ。エルドアン政権では、クルド人で「トルコ国籍で定住している人」に対する同和対策は法制化されており、政権が敵対していると言うのはPKK(クルド労働者党)の過激派のことである。エルドアンの民族差別問題やクルディスタン共和国独立派への弾圧だと騒いでいる連中が、日本へ密航してくる資金提供をしているという話もある。トルコ国内の事情を日本人は知らないし、トルコとクルドの民族差別となれば説明されても解らないだろう。



せたい日本政府の腰抜けを見越している中共が裏で暗躍し、息のかかった政治家や運動家を扇動して「クルド人の移民促進」を訴えて、川口市に治外法権地を確保しようとしている。

難民申請を五回も出して却下されながら、高級外車を乗り回しているクルドのマフィアも存在している。日本人の中に、それらと結託している勢力が居るから可能なことなのだ。ある小学校では、中国人移民の子どもに日本語の読み書きを教えるだけで大変だったのに、クルドの子どもたちはその中国人よりレベルが低いのでお手上げだと言っている。小学校は一割くらいがクルド人や中国人の子どもという所も少ない。これが関西のように、中国人や韓国人が古くから定住している所では、新参者のベトナム人やミャンマー人が小学校にいくら増えてもさほど問題化しないのだが、東京の周縁地を取り囲むという中共戦略で動いている移民問題を背景にした埼玉県などは、頼る所も分からなくなっているようだ。

六月十日から日本の改正入管法は施行されているので、クルド人の難民申請を二回却下したら「トルコに強制送還する」という政治判断も可能になってきている。繰り返すが、彼らは戦争や弾圧から逃れてきたトルコ国民ではないのである。組織的に、貧乏から抜け出して日本という新天地で暮らそうと言って入国して来たのである。それを支援するのが、中国残留孤児の親族だと自称する連中の「不法移民の先輩」なのだから、実には手が混んでいる。

川口市では建物解体工事が多いのだが、解体業者は何故かクルド人が多いと言う。聞けば、解体業者が仕事も少なく後継者も居なかった数年前頃に廃業が多くなり、廃業する時に事業継承者として不法残留のクルド人グループが名乗り出て、株や権利を全部買い取ったという。そこに仲間が一気に集まって、居住区が出来上がり、公園で小便も大便もするしゴミも道ばたに捨てるというクルド流のルールが通用し始めた。先住していた中国人はクルド人の傍若無人さと肉体的な頑丈さに目をつけ、マフィアの仲間に入り始めたそうだ。

そうやって不法残留者であるはずのクルド人は「トルコのパスポートで日本に入国しながら、難民申請して家族全員での移民を願っている」という詐欺行為を実践している。トルコに強制送還することも可能なのだが、穩便に済ま

は戦争や弾圧から逃れてきたトルコ国民ではないのである。組織的に、貧乏から抜け出して日本という新天地で暮らそうと言って入国して来たのである。それを支援するのが、中国残留孤児の親族だと自称する連中の「不法移民の先輩」なのだから、実には手が混んでいる。

クルド人の子どもたちが無免許で軽四トラックを運転して、解体業の手伝いをしているのは知られた話だが、警察に無免許で捕まると「人権問題だ、差別だ」と乗り込んで来る弁護士と自称市民グループが決まっているそうで、どうやら能力の低い日本公安情報にもネットワークは掴まれてきたようだ。

埼玉県のクルド人問題は、中国残留孤児の親族だと自称していた不法残留者を、妙に庇いだてして見逃したツケが回ってきたような気がするが、取り敢えずは問題の核心だけは把握した上で、今後を考えてゆくべきだろう。

異常気象が未作りに及ぼす深刻な問題

もう二十年くらい前から、今のままでは日本で作りに適した地方が無くなるかも知れないと言われてきた。気温が高くなり過ぎているのだ。

それまでは一等米の産地だった九州各地では、田圃の水が暖かくなり過ぎ、平均して二度ほど高くなった。既に鹿児島県と宮崎県では、稲作不適地と囁かれ始めている。米の品種改良が急がれ、J Aと農林水産省では大騒ぎになっていた。全国的にも既存の品種では気温上昇に対応しきれず、北陸や東北でも既存の品種では時間の問題だと関係者は嘆いていた。ある研究者は、これから米作りに最も適した地域は北海道だけになるかもしれないと言っていた。

日本の米はジャポニカ米であり、温帯性の米である。そこが大事な所なのだ。熱帯性の米でも寒冷地の米でもない、大陸から稲作の水稲栽培が九州北部に伝播してから、そのまま二千年以上に亘って改良され続けてきた。陸稲栽培よりも効率が良い水稲栽培は、日本の農業の姿を作り上げてきたのである。

兵庫県も一等米の名産地だが、最近では「キヌヒカリ」が暑さに負けて米粒が成長途中で白濁していた。平成二十八年から品種改良のために一万品種の交配を繰り返して、平成三十

北朝鮮が抱える時限爆弾

北朝鮮から風船にぶら下げたゴミなどが韓国へ飛ばされ、韓国に居る脱北者団体からは韓国映画のUSBメモリと金正恩の悪口を書いたビラが風船で飛ばされた。それを日本世論は「目糞と鼻糞の醜い争い」と笑ったが、当の北朝鮮は「目糞が何を言う」と笑っていた。

南から北に送られたビラには「金正恩の母親は在日朝鮮人の高容姫(コ・ヨンヒ)であり、由緒正しい白頭山の純粋な血ではない」と書かれていたが、北の三代目にとっては、周辺は付度マン、イエスマン、ぶら下がりの茶坊主らばかりなので痛くも痒くもないし、誰も話題にはしないのだ。おまけに韓国では総選挙で野党の「北の言いなりグループ」が大勢当選しているのだ、

年には七〇品種に絞り込み、令和に入ってから高温暖性を持った「兵九一号」「兵九二号」の二系統の実証に移った。兵庫県とJ Aが協力して品種改良しても、六年以上の歳月が必要なのである。これは兵庫県の南部で栽培することを目的としており、北部の日本海側では状況が違ってくるので、今回の結果は当てはまらないようだ。つまり全国的に見れば、気温上昇の度合いによって、各地方で細かい分類で適合品種を作り上げる必要性が出てくるのだ。それまでに何年かかるのだろうか。適合品種が出来上がる頃に、もっと気温上昇していたらどうなるのか。



人間の力でも自然環境も気温上昇も、日照や降水もコントロール出来ない。米の品種改良と農業のシステム改革で対応するしかない。農を守ることも、米を守ることも、食を守ることも、思いつきや法律改正で出来るようなものではない。年月をかけて自然に立ち向かい、上手く行けば成功するレベルの話なのである。頑固に保守的な考えで自縄自縛していたら、農も米も食も先細りになる。

南の情報も確度の高いものが入るようになってくる。中共の仲介で、北のミサイルや砲弾は値段の割に性能が高いというので、国際市場で売れているそうだ。ロシアのプーチンも三代目には借りが出来ているので、何かあれば後ろ盾はなってくれるらしい。…と、ここまで聞けば北朝鮮の独り勝ちのようだが、実は時限爆弾があるのだ。

二〇一三年に一人娘・金主愛(ジュエ)が生まれ、家族愛に飢えていた彼は一気にマイホーム・パパに変身した。父親から指名されていた教育係の参謀長だった李英鎬と、実の叔父である行政部長の張成沢を排除するために、中共に媚びる両班根性の裏切り者として銃殺刑にした

のは、自分の愛娘までも彼らに支配されることへの露骨な嫌悪だった。娘への誕生祝いと見えないこともない。

正恩は小さい頃から筋金入りの若手軍將校を守り役につけられ、ヨーロッパに留学した期間があったので、聞いている話では「彼は案外インテリで冷静な男だ」との人物らしい。だから「十大原則」を三十年ぶりに改定した時に、「私は白頭血統であり、娘も白頭血統である。この国を治めるのは白頭血統でなければならぬ」と宣言し、自分の後継者は娘だと表明した。四代目は女性皇帝となることを明らかにすることで、国際的な反応を見ていた。他国を口汚く罵る役目も妹の金与正（ヨジョン）に任せ、白頭血統の人なら女性であっても齒向かうなど家来たちには言い聞かせた。朝鮮は中共と同じで、ひどい男尊女卑の国なので、実はこれに最も驚いたのが韓国だった。

二〇二二年十一月にジュエを公式デビューさせたが、肩書きは「党中央」という家来たちなら文句を言えないものにした。ジュエの最も象徴的な役目は、北を核大国とミサイル大国にして「この世の楽園」を北に作ることにあった。ジュエは意外に聡明らしいと言われているが、物心ついた時から周辺は付度マン・イエスマン・茶坊主・奴隷ばかりなので、遠慮なく思いつきを命令する癖が有るといふ。それが良い結果の場合ばかりではなく、悪い場合には家来の誰かが罰を受けるらしい。まるで金正日の子ども時代を見ているようだと言ふ人もいるそうだ。

正恩は、ジュエは統治者としての才能があると手放しのようで、我々の知らない所でジュエの命令で北の国が進んでいる可能性もある。



韓国を「平和統一の相手」と言うのをやめて、完全破壊して人工衛星から見たらソウルは地上に存在しないようにすると言ったのも、ジュエを女帝とする為の予告編のようなものである。だからジュエは、韓国を消し去る前提で考え、韓国や日本が心を入れ替えて北に忠誠を誓うならば考えを改めても良いと言うようになっていくのだ。

韓国の尹錫悦政権はあと三年しか残っていないので、次の左翼（北の言うなり政権）が韓国・日本・アメリカ・台湾の防衛協定を遵守したまま、北の代理人として振る舞うことを想像している正恩は、東アジアの盟主女帝をジュエにやらせたいと夢想している。天照大御神を知っている正恩は、ジュエをその姿に近づけようと躍起なのだ。

長生き出来そうにない正恩としては、自分は徳川三代將軍であっても、娘は天照にするのだと息巻くので、娘に帝王学を施している。ジュエは両親の言うことしか聞かないらしいが、三代目が立派な人格者に娘を育てるとは考えにくいので、ジュエは狂気の女帝として歴史に刻印される可能性もある。周辺にはアドバイスさえする人が居らず、我がまと思いつきを父親が放任した場合、ソウル、那覇、台北にミサイルを撃ち込む命令をジュエに発出されるかもしれない。それを止める人が居なければ、ジュエは地獄の魔女として君臨することになる。

三代目が抱え込んだ時限爆弾とは、成長するに従い尊大で強情になっていく愛娘のことである。成長を楽しみにしているのは、恐らく父親だけだろう。

読者投稿

能登半島地震

現地の声〈第三回〉

田丸政盛

■六月三日、またも震度5

つい先日、発生から五ヶ月を経過した六月三日午前六時半頃、震度5強発生。珠洲5強、同輪島、能登町5弱、七尾4、中能登4、津幡3、同金沢、加賀3、福井県芦原、富山、新潟、岐阜、

長野、群馬、栃木などなど広範である。岐阜の火山活動の影響も念頭におきたい。

さて私達は防災メールの音で目が覚めた。前夜遅かったので寝ぼけまなこで都合二回の揺れと、防災メールは無視して寝る。我ながら強心

臓になったものだ。この防災メールというものが凄まじい騒音で、被災地に住む者にこれほど不安をかきたてるものは無い。目覚まし時計としては恐らく世界最高性能で他国の追随は許さない事必定である。地震とメール音という自然と機械のハイブリッドなのだから。右隣家からはスマホの防災メールの音がこちらに聞こえるが、いつの間にか何処かへ早々と退散した模様。私はラジオをつけたがしばらくの内に眠ってしまい寝起きは昼過ぎではなかったかな？と思う。因みに我が家はスマホではない。

■現時点での生活実態

さて本題の続きに移りたい。まず今回(元日)の震災発生時は例年通りの天候ではないこと。暖冬晴れが前年からあり雪が無く、この事が帰省や観光に拍車をかけたが地震により裏目に出た。

右隣家のご主人から聞いた話である。発生当日震源地である志賀町の養護保養施設にて彼は嘱託庭師をしているが、コロナの影響で過去三年間、大晦日から年明けの恒例餅つきが無かったそう。それが今年こそはと開催が決まり、年末から正月餅つき準備で張り切っていたのだが、もうお分かりの通り震源地で被災したのである。

中能登は山師と田圃なので新米の餅米で気合い一発、晴れの舞台が一転したわけだ。施設ではゆっくり午後からの入浴、湯上がりで上機嫌の客と餅つき法被着姿だったのが午後四時十分と共に意気消沈。電気、水道、などインフラが潰れ、山地であるから道路は寸断。湯上がりから一転寒気あり地震あり。何が何やら避難に入りほうほうの体で命からがらだったとの事。本人曰く、志賀町長の収賄事件も重なり今後の先行き見通しが不安で、まさに泣きっ面に蜂と言う事が窺える。嘱託と言ってもバイトの臨時であるから環境変化の影響で米の質は悪く、兼業農家としてはどうにもならない。田舎の行政嘱託なぞコネの口利きが大半で、コロナ、町長収賄、地震等々まとめ一式で来た形になる。本人曰く中能登は地震の被害も少ないし、良く言えば安定、悪く言えばマンネリで退屈な所が本音で、少

子高齢化に加え若者の覇気は無く、その少ない若者は街に出て行く為、将来の展望が見えない所とぼやいていた。

内心気持ちはわかるが、世の中の流れには逆らえない事を考えると口を閉ざすしかない。無論オフレコである。狭い山師と百姓ドコでは、出身地ではない余所者の私との会話は、実態を密告する様なもので我が身に関わる。この話が報道に出ないことは幸いだが…。

その志賀町に発生四時間後に、母の安否確認の為、最短距離で輪島に向かうには志賀町の山越ルートしか無い。餅つき予定の方と客と私や母、妹、遠く離れて自衛官勤務の長男、その他全てが運命を共有している。時間、場所、状況は違えど共有には違いない。しかし、いつ辻褁と帳尻が合うのかは神のみぞ知り得るとしか今は言えない。



私達の現状はまず、灯油がないので暖が取れない。水は配管が壊れて出ない。買いに行っても物が無い。食料も小麦粉だけ。寒気でマイナス5℃位、物置き三畳間で二人で寝る。車中泊と同じくエコノミー症候群の危険あり、食料の配布はない。かつサイレンの様な防災メールはランダムに流れるから三畳間では耳障りなことこの上ない。電気はかろうじて大丈夫だが、漏電による火災の危険で使わず灯油ランプで過ごす。テレビでの輪島の大火事は、密集地である事と古い屋内配線の漏電ショートが原因であるありさま。避難にせよ買い物にせよ金がないため、高いガソリン代で厳しく公共交通も機能せず、手も足も出ないと言うところだ。簡単に言うとも発生当時と変わらぬ状態であり、ライフラインは通過したものの、その後は正直厳しい。

輪島市にKというホテルがあるが、インフラが全て止まり最上階ラウンジで客がパニックだったという。最上階からの眺めもさぞ生きた心地がしなかったろうと思う。電力会社で検針をしていた方の話では恐怖の余り体が動かせず、さりとて火の手が上がる様は地獄そのものだったそうだ。因みにこのホテルは印僑が経営不振と後継者不在の所を買い叩きした物件である。

(続く予定)

インドの将来は明るいのか…

モディ政権の十年間の功罪について審判する選挙が、世界最大規模で行なわれた。政権は連立して継続されるようだが、ヒンズー教の原理主義を看板にするモディ政権では、カースト下層の情報は殆ど発信されない。圧倒的多数の人民がカースト下層に当たるようなインドでは、貧富の格差と言うより「人間の格差」が問題になっている。

カーストは特権階級のマハラジャ、宗教階級のバラモン、騎士階級のクシャトリアだけを上層階級として世の中が成り立っている。一般人民のバーイシャ、貧困階級のシュードラは社会の根幹を担っているのだが、上級階級にしてみれば「我々上層を支えている労働力」くらいにしか見ていない。中共政府の役人が下層民に対してよく言う言葉に「中国語を話す猿」という差別語があるが、同じような発想である。政治的か宗教的かという差だけだ。

インドでは、日本でエタと呼ぶような職業差別が明確で、それらに従事する人民をダリットと呼んで差別する。「ダリットが声を掛けて良いのはバーイシャまで。それ以上の上層に声を掛けると罰せられる」と決まっている。皮なめし、清掃業等の人民が、イギリス留学を許されている階級の人に町で声をかけたら、それだけで犯罪なのだ。乞食以下の不可触民であるチャンダラともなれば、人の姿をした動物なので、上層階級の人に声を掛けることがあったとしても、道ばたで犬が吠えているのと同じか思われないから無罪らしい。

さて、このヒンズー原理主義のインドで、一般人民階級の女性は「ワンランク下」なのだ、その女性たちが集まって二〇〇二年から「カバル・ラハリヤー」という新聞社を開設した。上層階級は差別しているが、モディ政権とすれば欧米文化からインドが指弾されることを防ぐ防波堤の役割に使えるので見逃しているそうだが、いまや映画化されて世界中で公開され話題になっている(写真)。

この新聞社が最初から取り組んでいるのが、モディ政権と結託するヒンズー原理主義の業



者たちによる「下層カースト人民から農地を安値で買い叩く」という開発手法への批判である。開発優先で許認可が出され、公共事業の名の下に経済発展を進めるとするのは、習近平の中共経済発展モデルと同一なのである。

インドでは北部のニューデリーを見ても分かるように、ヒンズー教で固まった都市が目立つ。南部では仏教が勢力を持つが、全土を見ればイスラムの台頭は勢いがある。ヒンズー原理主義にとつて最大の脅威はイスラムと対立することである。イスラムは「六信五行」という規則さえ守れば貧富の差を越えて神に守られるそうだが、税金はジズヤという人頭税だけであるし、金持ちは儲けの一分を喜捨することに決まっているそうなので、どうしても貧乏人が多く集まる傾向にある。ヒンズーの下層民がイスラムに目覚めることが、モディ政権にとつての脅威になっている訳だ。カーストが崩れれば、政権は崩壊する。

四十人もの下層民の女性記者が取材に回っているだけでも鬱陶しいのに、それに洗脳された下層カーストがイスラムに乗り換えれば社会は混乱することになる。「カバル・ラハリヤー新聞社」は、モディ政権にとつては時限爆弾なのだろう。

保守政権の根幹にはヒンズーがあり、民族問題も宗教問題もヒンズーの中で解釈されることになっている。そのヒンズーが原因で一〇〇年前にインド北部から「西へ永久に追放」されたのがロマ民族である。ロマは数万人が東欧、西欧、中東、北アフリカなどへ流れたが、彼らは日本のサンカと呼ばれた山の民と同じような慣習や性癖を強く持っていると言われている。セックスに大らかで、泥棒に寛大だと言われ、ロマ民族は流れた先の社会を不安にさせ混乱させる原因だと批判された。このロマ民族をジプシーと呼んでいたが、二十年ほど前からは、先進的な文化人や人権尊重派の人たちが「ジプシーは差別語だ」と糾弾を始め、今では「ジプシーはロマ人と言いつい換える」というのが世界共通のルールになっ

ている。

彼らの主流はスペインに流れて定住した一団だが、東欧に流れた一団は被差別民のままルーマニア、ハンガリー、スロバキアなどに定住した。この東欧の一団はソ連崩壊後に西側の先進的文化人と協力し、自分たちをロマ、自分たち以外をガジェと呼んで、ロマニ語を話し、上が青色、下が緑色、真ん中に赤い馬車の車輪が描かれた「ロマ国旗」を立てるようになった。毎年東欧諸国の政府の協力を受けて「世界ロマ大会」を開催し、歴史的な被差別少数民族だと猛烈にアピールしている。彼らが政治的に攻撃的な活動をしたり独立した地域を要求するようなことになれば、第二のクルド問題として世界的な頭痛の種になるだろう。

ロマ問題（ジプシー問題）はヒンズー教が原因である事は周知の事実だが、これをインド政府に突きつけるほどロマの勢力は強くない。主流のスペインにいるロマ民族やチュニジアにいるロマ民族などは、ロマニ語だけを話して現地人をガジェと言って敵視するよう

中国製合成麻薬フェンタニルが荒れ狂ってきた

中共がアメリカ社会を破壊するために作り出した合成麻薬フェンタニルが、中南米の麻薬シンジケートだけでなく、世界中のマフィアが金儲けする道具になってきたようだ。

最初は、中共がメキシコやコロンビアのシンジケートを使ってアメリカ国内に供給していたが、中国では安く大量に製造できるので、たくさん作っても全部売れるという「中共式」の経済ビジョンで動き出している。詳しくは分からないが、工場は中国全土に三箇所あるようで、解放軍が一元管理しているらしい。つまり、宿敵の公安部が手出し無用と言うことのようにだ。解放軍が絡めば、製造も搬送も秘密は守られるので、党中央も公安部も安全部も介入が難しいのである。

どうやら効き目を何段階かに分けた製品が作られており、子どもや初心者から慢性中毒者まで需要を満たせると言われている。そんな麻薬が大量生産され、大量に廉価販売され



なことはない。我が国の同和、被差別問題のように、歴史や複雑な由緒に古事記まで絡んでくるような深みが無いので、底の浅い民族問題で終わるだろう。国際社会はそう見ており寛大だが、クルド問題に於けるトルコと同様に、原因となったインドは心中穏やかでは居られないだろう。

ヒンズー原理主義をヒンズー至上主義と呼ぶかもしれないが、エジプトの王朝時代と同じような古さを持つヒンズー教が、一神教に駆逐されず残っていることは立派な事だ。ヒンズーが正しいからではなく、時の幸運だったと言える。ところが信者にとっては、正しいから残るといふ至上主義になるのだろう。その価値観は、遺伝子の中に残り続ける。すると、ヒンズー遺伝子のインド人は、それ以外のインド人と統一した価値観の政府を続けて行けるかという問題に直面するはずだ。世界最大の人口と混沌（カオス）を持つインドが、分裂することは世界にとつてメリットなのか、リスクなのか。外交関係を含め、インドの将来はまったく見通せない。

ている事実は問題にならない訳がない。カルテルもシンジケートもマフィアも中国からいくらでも安く仕入れることが出来るといふことは、いくらでも巧妙にさえ装えば世界中に売れる商品だということだ。業界で喧嘩して

縄張りを取り合うような荒っぽいことをしなくても、効き目の緩いものを一般薬に偽装して未開国の政府に輸入させれば、いくらでも新規開拓市場はあるのだ。A国のメーカーに偽装させ、それをB国政府に承認させれば、大手を振って商売が出来る。我が国の若者たちがフェンタニルだと知らずに「偏頭痛が治る、鼻の通りが良くなる、セックスが強くなる」として輸入サプリとして売買し始めるのも時間の問題だろうが、我が国のヤクザがフェンタニルを取引し始めるのも時間の問題かもしれない。中国・メキシコ・コロンビアの悪のトライアングルでは、フェンタニルは商品がだぶついているとの事

である。